

(別記様式)

平成22年度田辺高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）年度末評価

平成23年3月10日現在

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>「人間力ある人づくり」を目指して</p> <p>1 生徒一人ひとりを把握し、多様な組織的な教育活動を個に応じて展開する。</p> <p>2 普通科および工業に関する専門学科の併設を生かした教育活動を展開する。</p>	<p>1 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 男女ハンドボール部の全国大会出場をはじめ様々な部活動において充実した成績を残した。進路においては、就職については未曾有の景気低迷の中100%内定を年度内に果たし、進学では完成年度の工業技術科において国公立大学への進学を果たすなど一定の希望進路を達成することができた。 <p>2 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 2、3学年において前年度以上に原級留置、中途退学等、進路変更生徒数が増加した。学力の向上を目指し、教育環境の更なる充実を図るとともに、生徒に対して身だしなみ指導の一層の充実と校則を守るという規範意識を育て、本校の学校経営方針の「人間力」を具現化する。 	<p>1 原級留置、中途退学等、進路変更の生徒数を減少させる。</p> <p>2 基本的な生活習慣を確立し、規範意識を高め、規律正しい学校生活の実現に努める。 ～上記目標達成のため、具体的には校則を遵守させ、清掃活動、挨拶励行活動について一層の指導を充実させる。</p> <p>3 生徒一人ひとりの学習意欲を喚起し、個に応じた指導により、確かな学力を育む。</p> <p>4 工業教育推進の教学体制を一層確立し、系統的進路指導の充実を図る。</p> <p>5 「人間力」育成に係る大きな側面である部活動、特別活動、自主活動をより一層推進する。</p> <p>6 本校の教育活動を中学校、保護者、地域等への広報を一層推進する。</p> <p>7 上記の6項目を推進するため、各分掌・教科が連携を図り、重層かつ組織的な教学活動を推進する。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
学習指導	教科指導の充実を図る。	<p>生徒実態調査を実施し、分析することによって生徒の実態を把握する。</p> <p>-----</p> <p>公開研究授業を実施し、指導力の向上を図る。</p> <p>-----</p> <p>生徒による授業アンケートを実施し、授業改善に役立てる。</p>	<p>B</p> <p>-----</p> <p>B</p> <p>-----</p> <p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> 2学期に実施し分析を行なった。生徒の学習面・生活面の実態について、教職員全体の共通認識が得られた。 教科主任会議の取組みとして、11月に研究授業を実施した。互いの授業を参観することで各教員が互いに学びあう研修の機会ともなり、次年度も継続して研究授業を実施する予定である。 全教員が授業アンケートを実施し、教科毎に分析した。アンケートの結果・分析を教務研修会で発表し全体のものにできた。各教員が日々の教育実践を見直す機会として次年度もアンケートを継続して実施する。 1学期、2学期の中間考査前に実施し、授業に取り組む姿勢の再確認と位置づけ、毎年実施しており、一定の成果を挙げている。 現在、新学習指導要領の実施に向け、平成24・25年度入学生の教育課程について検討を進めている。
	組織的な指導を推進する。	<p>「授業を考える週間」を設け、授業規律の確立に努める。</p> <p>-----</p> <p>生徒の学力伸長・基礎学力充実を達成する適切な教育課程を検討する。</p>	<p>B</p> <p>-----</p> <p>A</p>	

生徒指導	基本的な生活習慣と学習習慣の確立の指導。	身だしなみ等に関して全教職員が一致した指導を行う。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 全教職員に、朝・昼の校門指導を割り当てて指導できた。 学期始めや衣替えの時期に合わせて指導を強化できた。 各教員と連携を取り、授業に臨む姿勢等について、個別に指導している。 警察との連携により、深夜徘徊等の指導を実施している。
		生徒の実態把握し、授業規律の確立を目指す。	A		
		問題行動の未然防止を図る。	A		
特別活動	自主性、自発性を育成する。	学園祭を成功させる。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭、体育祭ともに計画的に準備し、生徒たちが自主的に活動できる体制ができた。 新入生に対する、部活動紹介などに力を入れたが、入部率の向上は見られなかった。 学園祭など、生徒会が積極的に取り組み成功させることができた。 朝の挨拶運動やボトルキャップ回収運動、養護学校との交流会など、自主的な活動にも取り組めた。
		部活動を活性化させる。	B		
		生徒会・ボランティア活動を活性化させる。	A		
進路指導	希望進路の実現。	自己理解を深め、望ましい勤労観・職業観を養うために、効果的な進路指導を実施する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 就職に於いては、深刻な経済不況が継続し、昨年より厳しい求人状況ではあったが、当初より就職活動をしていた生徒については、年内の内定100%を達成できた。 進学では、進学補講の実施や模擬試験の積極的な受験を促すことにより、国公立大学を含め、中堅私大を中心とした希望進路を実現できた。 勤労意識や職業理解を深めることを目的としたキャリア教育の一環として、身近で働く人からの聞き取りや体験的職業ガイダンスを、今年度も継続して実施した。 次年度もまだ経済不況による就職難が予想され、就職希望者への指導の強化や新たな求人開拓など、進路保障に向けての指導の充実を図りたい。
		進路実現のため、学力向上に向けた補講や模擬試験を計画的かつ継続的に実施する。	B		
		生徒や保護者との進路相談を充実するため、個別面談や進路説明会を実施する。	B		
人権教育	人権意識の高揚及び実践的態度を育成する。	社会の実態や生徒の実状に即した効果的な人権学習を実施する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 1年「身近な人権問題」2年「同和問題」「障害者問題」3年「労働と人権」「結婚と人権」のテーマで、学年と連携を取りながら人権学習を行った。 また保健部と共催で教員向けの研修会を実施した。
		学校全体に人権についての理解を深めることで、人権感覚を高め、相互を尊重する態度を養う。	B		

工業教育の充実と発展	専門科目における基本的な知識・技術を身につけさせるとともに、各種資格において取得率向上、各種競技大会では好成績を目指し、進路実現に繋がる、より充実した体制を確立する。	国家資格や検定等の講習会等をより計画的に実施し、生徒の基本的学力向上に努める。	B	B	B	・資格・検定の講習を計画実施し、今年度は、機械製図検定で本校初の特別表彰者を出した。受験者全体としても、さらなる合格率向上を目指し取り組みたい。
		工業に関する各種競技会等において、一層の好成績を目指す。	B			・ものづくり競技大会やコンテストにおいて、積極的に取り組むことができ、好成績を得られた。
	企業などにおける、実際の技術・研究に触れる機会を企画	大学や企業の見学会及びインターンシップを計画的に実施する。	B	B	B	・インターンシップは、概ね良好に実施できた。技術探究コースの生徒に大学見学や大学准教授による講演を実施し、大学への関心を持たせた。
		外部技術者による講演や実技指導等を計画的に実施する。	B			・電気技術、機械技術の各コースにおいても、外部講師を招聘し、実技指導を受けることができた。
家庭・地域社会との連携	中高連携と広報活動を充実する。	中学生・保護者の本校に対する理解や関心を高めるため、学校説明会や施設見学を実施する。	B	B	B	・学校説明会では、生徒会ならびに工業科の生徒の協力を得て、受付など生徒の顔が見える学校公開につとめた。またクラブ体験と工業科体験、中学校での出張説明会や個別の学校見学希望にも柔軟に対応した。
		公開授業及び学習発表会を実施し、本校の教育活動を公開する。	B			・年2回の授業公開と、課題研究発表会、教科「情報」の発表会など学外へも広く広報し、開かれた学校を目指した。
		部活動等において、地域の諸活動への参加を促す。	B			・HPについては、内容、更新回数もふくめて、順調に更新されている。またPTAお知らせメールを毎週配信し、学校の活動を保護者に知らせた。
		ネットワーク、ホームページ等を活用した様々な媒体を活用して、生徒の活動を学校内外に紹介する。	A			・たなべ新聞の毎月の発行と、ダイジェスト版を中学校へ配布する等教育活動の成果の広報に努めた。 ・鉄道研究部、自動車部等は積極的に地域行事に参加し、地域の子どもや保護者から大人気であった。 ・グループウェアやネットワークの整備・管理、職員全員へのPC配布にともなう各種サポートを行った。
次年度に向けた改善の方向性	<p>・概ね目標を達成する事ができた。落ち着いた学習環境のもと、生徒個々の課題である確かな学力の向上は、見られた。その結果、進学や就職で希望進路の実現が達成できた。また、田辺高校生が様々な場面で活躍してくれた。体育系クラブでは、ハンドボール部男子が夏の府大会で2位に入賞、府の新人戦でも男子3位、女子2位となり、男女それぞれ近畿大会に出場した。文化系クラブでは、機械工作部が、府下のロボット大会で優勝し、5年連続全国大会に出場した。自動車科の課題研究で、昨年度製作した移動式茶室1号機を更に改良した2号機を上海万博に出展し、本校を世界にアピールすることができた。また、国民文化祭に向けてお茶運びロボットや自走式まゆまるロボットを製作し、地域のイベントに出展し人気を博した。今後は、全ての面でワンランクアップの田辺高校を目指し、教職員一丸となって取り組む所存である。</p>					

評価

A：十分達成できている（目標以上の成果があった）

C：達成できているとはいえない（成果は見られたが目標には達していない）

B：ほぼ達成できている（ほぼ目標どおりの成果があった）

D：達成できていない（成果がなかった）